

F-99ED0169 (209)

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

1999年10月29日

出願番号  
Application Number:

平成11年特許願第309026号

出願人  
Applicant(s):

沖電気工業株式会社

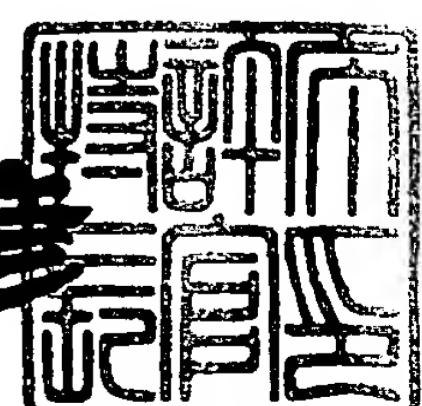
JC882 U.S. PRO  
09/638920  
08/16/00

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

1999年12月24日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

近藤 隆彦



【書類名】 特許願  
【整理番号】 OG004216  
【提出日】 平成11年10月29日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 H04L 7/08  
【発明者】  
【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門1丁目7番12号 沖電気工業株式会社内  
【氏名】 山崎 清彦  
【特許出願人】  
【識別番号】 000000295  
【氏名又は名称】 沖電気工業株式会社  
【代理人】  
【識別番号】 100089093  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 大西 健治  
【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 004994  
【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
【物件名】 明細書 1  
【物件名】 図面 1  
【物件名】 要約書 1  
【包括委任状番号】 9720320  
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 受信回路

【特許請求の範囲】

【請求項1】 受信信号を復調し、復調された復調データから同期パターンを検出することにより、該検出された同期パターンに応答して、前記復調データに含まれる所望のデータの格納及び出力を制御する受信回路において、前記受信信号を復調し、前記復調データを出力する復調回路と、前記復調データに含まれる同期パターンを検出し、検出結果を指示する指示信号を出力する検出回路と、前記指示信号を受信し、該指示信号を受信してから所定時間経過毎にパルス信号を出力可能なパルス発生回路と、前記指示信号と前記パルス信号との少なくともいずれか一方に応じた制御信号を出力する制御回路と、前記制御信号に応答して、前記復調データに含まれる所望のデータを格納及び出力するためのクロック信号を発生するクロック発生回路と、を有することを特徴とする受信回路。

【請求項2】 前記パルス信号を受信し、モード信号に応じて、前記パルス信号に応じた信号の前記制御回路への伝達を制御するパルス伝達制御回路を有することを特徴とする請求項1記載の受信回路。

【請求項3】 前記パルス発生回路は、受信回路の動作に用いられる動作用クロック信号に基づき計数動作を行なうカウンタから構成されるものであり、前記受信回路は、前記動作用クロック信号を受信し、モード信号に応じて、前記動作用クロック信号に応じた信号の前記パルス発生回路への伝達を制御するクロック伝達制御回路を有することを特徴とする請求項1記載の受信回路。

【請求項4】 前記モード信号は、第1の電圧レベルにて通常動作モードを指示し、前記第1の電圧レベルとは異なる第2の電圧レベルにてビット誤り率測定モードとを指示するものであり、前記パルス伝達制御回路は、前記モード信号が前記第1の電圧レベルの時に前記パルス信号に応じた信号を前記制御回路へ伝達することを抑制し、前記モード信号が前記第2の電圧レベルの時に前記パルス

信号に応じた信号を前記制御回路へ伝達することを許可することを特徴とする請求項2記載の受信回路。

【請求項5】 前記モード信号は、第1の電圧レベルにて通常動作モードを指示し、前記第1の電圧レベルとは異なる第2の電圧レベルにてビット誤り率測定モードとを指示するものであり、前記クロック伝達制御回路は、前記モード信号が前記第1の電圧レベルの時に前記動作用クロック信号に応じた信号を前記パルス発生回路へ伝達することを抑制し、前記モード信号が前記第2の電圧レベルの時に前記動作用クロック信号に応じた信号を前記パルス発生回路へ伝達することを許可することを特徴とする請求項3記載の受信回路。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、TDMA (Time Division Multiple Access : 時分割多元接続) 方式等を用いた無線装置における受信回路に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

ディジタル方式の移動体通信は基本周期となるフレームが定められ、このフレーム内で割り当てられた一定時間幅（主にタイムスロットと称される）を用いて無線信号の送受信を行なっている。

【0003】

このため、同一周波数の無線回線を時分割で使用することができるため、通信を行なう各局は共通の時間基準を持ち、送信された無線信号には各局にて時間基準とするための情報として、同期パターン（ユニークワードとも称される）を持たせることにより、無線回線上で重ならないようにタイミング制御を可能としている。

【0004】

つまり、送信側（例えば、基地局）は、送信すべきディジタルデータを変調し、この変調されたデータと同期パターンを含めた、所定のフォーマットのベース

ト信号を、無線信号として送信する。受信側（例えば、移動局）は、受信した無線信号を復調し、復調されたデータ（以下、復調データと称する）から同期パターンを検出する。同期パターンが検出できた場合には、これを時間基準として、復調データを格納及び出力すべきクロック信号に基づいて格納するようになっている。同期パターンが検出されることで、復調データのどの位置からが所望のデータであるかを判断できるようになっている。

#### 【0005】

格納されたデータは、外部のマイクロコンピュータや上位回路に出力され、目的に基づいて所望の処理が施される。

#### 【0006】

なお、同期パターンが検出されない場合には、先に受信し、格納しているデータ、あるいは全てのビットが論理‘0’あるいは論理‘1’に固定されたデータが、外部のマイクロコンピュータや上位回路に出力される。

#### 【0007】

##### 【発明が解決しようとする課題】

無線装置において、ビット誤り率特性を測定することがある。ビット誤り率特性とは、無線信号とノイズとの比をパラメータとして、受信し、復調した復調データがどの程度誤るかを測定することにより得られるものである。ビット誤り率特性を測定することで、送受信を行なう2局間でのデジタル伝送の品質を判定することができる。

#### 【0008】

ビット誤り率特性の測定においては、送信側、例えば試験信号発生装置が送信するバースト信号において、変調されたデータとして、疑似ランダムパターンと称される、所定の法則に基づいた疑似ランダムパターンからなる変調データを同期パターンとともに送信する。

#### 【0009】

受信側、例えば、移動局側では、送信されたバースト信号を受信し、復調する。受信側の受信回路では、復調データから同期パターンを検出し、同期パターンが検出できた場合には、復調データから疑似ランダムパターンに相当するデータ

を格納することができる。この格納されたデータは、例えば、試験装置等に出力され、試験装置は、格納されたデータが、送信時に疑似ランダムパターンを発生させるのに用いられた法則に基づいているかどうかをピット単位で確認する。受信したデータのうち、送信時に疑似ランダムパターンを発生させるのに用いられた法則に基づいていないピットについては誤りとしてカウントされる。このカウント数によってピット誤り率特性が測定される。

#### 【0010】

ここで、送信側は、連続した疑似ランダムパターンを、連続した複数のフレームに渡って、各フレームにおける所定のバースト信号にて分割して送信している。このため、受信回路が、送信されたバースト信号の復調データから同期パターンを検出できなかった場合、そのバースト信号においては復調データから疑似ランダムパターンに相当するデータが抽出できない。このため、同期パターンを検出できなかったバースト信号に対しては、確率的に約50%の誤りとなってしまうこととなる。この結果、正確なピット誤り率特性を測定することができないこととなる。

#### 【0011】

本発明は、上記課題を解決し、ピット誤り率特性の測定をより正確に実行できる受信回路を提供することを目的とするものである。

#### 【0012】

また、本発明は、上記目的を通常の動作への影響、受信回路を構成する構成要素の増加、消費電力の増加のそれぞれを極力低減して上記目的を実現する受信回路を提供することを目的とするものである。

#### 【0013】

##### 【課題を解決するための手段】

上記目的を実現するために、本発明にて講じた手段は、受信信号を復調し、復調された復調データから同期パターンを検出することにより、この検出された同期パターンに応答して、復調データに含まれる所望のデータの格納及び出力を制御する受信回路において、受信信号を復調し、復調データを出力する復調回路と、復調データに含まれる同期パターンを検出し、検出結果を指示する指示信号を

出力する検出回路と、指示信号を受信し、この指示信号を受信してから所定時間経過毎にパルス信号を出力可能なパルス発生回路と、指示信号とパルス信号との少なくともいずれか一方に応じた制御信号を出力する制御回路と、制御信号に応答して、復調データに含まれる所望のデータを格納及び出力するためのクロック信号を発生するクロック発生回路と、を有するようにしている。

#### 【0014】

また、本発明においては、モード信号にて、パルス発生回路から出力されるパルス信号の発生の伝達を制御するようにしてもよい。

#### 【0015】

##### 【発明の実施の形態】

本発明の受信回路について、以下に図面を用いて詳細に説明する。図1は、本発明の第1の実施の形態における受信回路の回路図である。なお、本発明においては、受信回路が、移動局側の無線装置に内蔵されるものとして説明するが、これに限らず、基地局側の装置に内蔵されるものであっても適用可能である。

#### 【0016】

図1において、受信回路は、復調回路101、検出回路102、格納手段であるレジスタ103、クロック発生回路104、パルス発生回路201、制御回路202から構成されている。

#### 【0017】

復調回路101には無線信号RFとして、各フレームのバースト信号が入力される。復調回路101は、受信したバースト信号を復調し、復調データRDを出力するものである。

#### 【0018】

検出回路102には、復調データRDが入力される。検出回路102は、受信した復調データRDから同期パターンを検出するものである。検出回路102が所望の同期パターンを検出した時に、指示信号DET1として、一時的に短い時間だけ電圧レベルが電源電圧レベル（論理レベルがHレベル、以下、単にHレベルと称する）となるワンショットパルスを出力する。検出回路102が所望の同期パターンを検出できなかった時は、指示信号DET1は電圧レベルは接地電圧

レベル（論理レベルがLレベル、以下、単にLレベルと称する）を維持したままである。

#### 【0019】

パルス発生回路201は、指示信号DET1と、復調回路101や検出回路102の動作等、受信回路の動作に用いられる動作用クロック信号CLKが入力されている。パルス発生回路201は、例えば、カウンタから構成されるものである。つまり、パルス発生回路201は、初期値（例えば、0カウント状態）から動作用クロック信号CLKのクロック数を計数し、この計数値がカウンタとしてのパルス発生回路201の計数限度に到達し、オーバーフローした際に、カウントアップ信号COとしてワンショットパルスを発生する。カウントアップ信号COは、このワンショットパルスを発生していない状態では、Lレベルを維持している。また、オーバーフローした後は、パルス発生回路201は、再び初期値から計数を行なうものである。つまり、パルス発生回路201は、所定の計数値を巡回して計数するタイマ回路である。また、このパルス発生回路201は、指示信号DET1として、ワンショットパルスが入力された時、つまり、検出回路102が、同期パターンを検出した時に、パルス発生回路201の計数値は初期値にリセットされるようになっている。なお、パルス発生回路201の計数限度については後述する。

#### 【0020】

パルス発生回路201は、例えば、複数のフリップフロップから構成されるカウンタにて実現可能である。この場合、複数のフリップフロップのリセット端子に指示信号DET1が入力されるようにしておけばよい。

#### 【0021】

制御回路202は、2入力1出力のORゲートで構成されている。このORゲートの入力側には、指示信号DET1とカウントアップ信号COとがそれぞれ入力されている。このため、制御回路202は、指示信号DET1とカウントアップ信号COとがともに電圧レベルがLレベルの時には、電圧レベルがLレベルの制御信号DET2を出力しており、指示信号DET1とカウントアップ信号COのいずれか一方がワンショットパルスを発生した時に、これに応じた制御信号D

E T 2 を出力するものである。

#### 【0022】

クロック発生回路104は、制御信号DET2が入力されている。クロック発生回路104は、制御信号DET2としてワンショットパルスを受信した時に、所定の周期の第1のクロック信号CK1と、この第1のクロック信号CK1の発生が終了した後に発生する第2のクロック信号CK2とを発生する。

#### 【0023】

この第1のクロック信号CK1は、復調データに含まれる所望のデータ（受信回路の後段に位置するマイクロコンピュータや外部装置にて、処理されるデータ）を順次格納するのに用いられるものである。このため、第1のクロック信号CK1は、復調データに含まれる所望のデータに相当するデータが後述するレジスタ103に到達するタイミングにて発生が開始し、このデータのビット数分だけクロックが発生される。第2のクロック信号CK2は、格納したデータを順次出力するのに用いられるものである。このため、第2のクロック信号CK2は、第1のクロック信号CK1と同様に、このデータのビット数分だけクロックが発生される。

#### 【0024】

つまり、クロック発生回路104は、復調データに含まれる所望のデータの格納や出力のタイミングを制御する第1のクロック信号CK1や第2のクロック信号CK2を発生するタイミング制御回路としての役割も有するものである。

#### 【0025】

レジスタ103は、例えば、格納すべき所望のデータのビット数分の格納を行なうシフトレジスタから構成されるものである。レジスタ103は、第1のクロック信号CK1に応じて、受信される復調データの所望のデータを順次格納し、第2のクロック信号CK2に応じて、格納したデータを順次出力データDOとして出力するものである。つまり、第1のクロック信号CK1は、レジスタ103におけるデータ格納用のシフトクロックとして用いられ、第2のクロック信号CK2は、レジスタ103における格納したデータの出力用のシフトクロックとして用いられるものである。

【0026】

このように構成された図1の受信回路は、バースト信号を受信し、所望の同期パターンが検出された場合に、そのバースト信号の復調データから所望のデータを格納し、出力するように動作する。

【0027】

ここで、送信されてくるバースト信号とこのバースト信号のフォーマットについてを図面を用いて説明する。図2は、送信されるバースト信号と、そのバースト信号のフォーマットを説明する図である。

【0028】

無線信号RFは、バースト（間欠）状態で信号を送信してくるものである。このうち、同期パターンを有するバーストデータが、各フレームに複数配置されている。図2に示すバースト信号BDは、それぞれ同期パターンを有し、本発明における受信回路を内蔵する無線装置にて取り込むべきデータを有するものとする。

【0029】

このバースト信号BDは所定のフォーマットで構成されている。図2に示されるように、各バースト信号BDは、プリアンブルPR、同期パターンに相当するユニークワードUW、マイクロコンピュータ等にて処理が施されるべきデータDATA、誤り検出ビットCRCを有している（実際には、ランプタイムやスタートシンボル等も有するが、本発明の説明上においては必要ないので、説明を簡略にするため示していない）。プリアンブルPR、ユニークワードUW、データDATA、誤り検出ビットCRCはそれぞれビット数が予め決められているものである。このため、復調データからユニークワードUWに基づく同期パターンを検出できれば、データDATAの位置も確認することができる。なお、上記説明においては、復調したデータDATAをレジスタ103に格納するものとして説明している。

【0030】

また、各フレーム間隔も予め決められているものである。このため、先に受信したバースト信号BDにおいて、同期パターンが検出できれば、次に受信すべき

バースト信号BDの同期パターンの位置、及びデータDATAの位置は確認できる。例えば、先に受信したバースト信号BDにおいて、同期パターンが検出されてから、次に受信すべきバースト信号BDのデータDATAの位置までは、約5msの間隔である。このため、パルス発生回路201の計数限度は、この間隔（約5ms）を、カウント対象の動作用クロック信号CLKの1周期の時間で割った数に相当するようにしておけばよい。

#### 【0031】

ここで、ビット誤り率特性の測定に用いられる疑似ランダムパターンは、図2に示すデータDATAに配置されるものである。図2に示すバースト信号BDそれぞれに連続した疑似ランダムパターンが分割されて順次送信されることとなる。

#### 【0032】

このように、ビット誤り率特性の測定をより正確に行なうためには、分割されて送信される連続した疑似ランダムパターンを確実に、データとしてレジスタ103に格納していくことが要求される訳である。

#### 【0033】

次に、図1における受信回路におけるビット誤り率特性の測定時の動作を以下に説明する。図3は、本発明の第1の実施の形態における受信回路の動作を説明するタイミングチャートである。図3における各信号の符号は、図1における信号の符号と対応している。

#### 【0034】

図3において、初期状態、つまり、無線信号RFとして所望の疑似ランダムパターンを有したバースト信号を受信していない状態では、指示信号DET1の電圧レベルはLレベルになっている。また、パルス発生回路201はカウント動作をしているが、カウントアップ信号COの電圧レベルもLレベルのままであるとする。このため、制御信号DET2の電圧レベルもLレベルのままであり、第1及び第2のクロック信号CK1, CK2ともに発生していない。

#### 【0035】

時刻T1において、受信回路が、無線信号RFとして受信したバースト信号か

ら所望の同期パターンが得られたとする。このため、指示信号DET1は時刻T2まで、電圧レベルがHレベルとなるワンショットパルスを発生する。これに伴い、制御信号DET2も時刻T1から時刻T2まで、電圧レベルがHレベルとなる。クロック発生回路104は、制御信号DET2の変化に基づき、第1のクロック信号CK1を、受信したバースト信号の復調データのうち、レジスタ103に格納すべきデータ（疑似ランダムパターン）のビット数分発生する。図3においては、時刻T3の前まで、第1のクロック信号CK1を発生している。つまり、時刻T3までにレジスタ103には、格納すべきデータが格納される訳である。

#### 【0036】

また、時刻T1において発生した指示信号DET1の変化に基づいて、パルス発生回路201の計数値は一旦初期値にリセットされる。時刻T2からパルス発生回路201は、初期値からの計数動作を再び始めることとなる。

#### 【0037】

時刻T3において、クロック発生回路104は、第1のクロック信号CK1に続いて、第2のクロック信号CK2を発生する。第2のクロック信号CK2は、レジスタ103に格納されたデータのビット数分発生する。図3においては、時刻T4の前まで、第2のクロック信号CK2を発生している。つまり、時刻T4までにレジスタ103から、格納されたデータが順次出力データDOとして出力される訳である。

#### 【0038】

時刻T4の前に、次に受信すべきバースト信号を受信したとする。ただし、ここで受信したバースト信号の復調データから同期パターンが検出されなかったとする。この結果、時刻T4にてワンショットパルスを発生すべき指示信号DET1の電圧レベルはLレベルのままである。

#### 【0039】

ここで、時刻T4にて、パルス発生回路201の計数値がカウンタとしてのパルス発生回路201の計数限度に到達し、カウントアップ信号COとしてワンショットパルスを発生する。つまり、パルス発生回路201の計数限度は、時刻T

2から時刻T4までの時間（約5ms）に相当する計数値となっている。このようにすることで、パルス発生回路201は、先に検出されたバースト信号の同期を検出してから次に受信するバースト信号の復調データに含まれた疑似ランダムパターンの位置を予測し、その疑似ランダムパターンをレジスタ103に格納できるタイミングで、制御信号DET2を変化させることができる。よって、時刻T4にて、カウントアップ信号COは、時刻T5まで、電圧レベルがHレベルとなるワンショットパルスを発生する。これに伴い、制御信号DET2も時刻T4から時刻T5まで、電圧レベルがHレベルとなる。

#### 【0040】

このように、受信したバースト信号の復調データから同期パターンが検出されなかったとしても、パルス発生回路201により、制御信号DET2にワンショットパルスを発生させることができる。この結果、クロック発生回路104から第1及び第2のクロック信号CK1, CK2を発生させることができ、同期パターンが検出されなかったバースト信号の復調データからも疑似ランダムパターンをレジスタ103へ格納することができる。

#### 【0041】

時刻T5においての受信回路の動作は時刻T2と同様に、第1のクロック信号CK1によりレジスタ103に疑似ランダムパターンを格納し、時刻T6においての受信回路の動作は時刻T3と同様に、第2のクロック信号CK2によりレジスタ103に格納した疑似ランダムパターンを出力データDOとして出力することができる。

#### 【0042】

なお、時刻T4にて、カウントアップ信号COとしてワンショットパルスを発生したパルス発生回路201は、時刻T5から初期値に戻って再び計数動作を続ける。

#### 【0043】

時刻T7の前に、次に受信すべきバースト信号を受信したとする。ここで受信したバースト信号の復調データから同期パターンが検出されたとする。この結果、時刻T7において、指示信号DET1の電圧レベルは、時刻T8まで電圧レベ

ルがHレベルとなるワンショットパルスを発生する。

【0044】

また、時刻T7においては、再びパルス発生回路201の計数値が計数限度に到達し、パルス発生回路201はカウントアップ信号COとしてワンショットパルスを発生する。

【0045】

このため、時刻T7から時刻T8までにおいては、指示信号DET1とカウントアップ信号COとがともにワンショットパルスを発生し、これに基づき制御信号DET2もワンショットパルスを発生することとなる。

【0046】

なお、指示信号DET1とカウントアップ信号COとがそれぞれ電圧レベルがHレベルとなるタイミングが異なることが考えられるが、正確に同期パターンが検出されればこのタイミングのずれはわずかであり、レジスタ103にデータを格納するのに問題はない。

【0047】

時刻T8においての受信回路の動作は時刻T2と同様に、第1のクロック信号CK1によりレジスタ103に疑似ランダムパターンを格納し、時刻T9においての受信回路の動作は時刻T3と同様に、第2のクロック信号CK2によりレジスタ103に格納した疑似ランダムパターンを出力データDOとして出力することができる。

【0048】

以上のように、図1に示す本発明の受信回路においては、送信されてくるバースト信号の復調データから同期パターンが検出されない場合があっても、分割されて送信される連続した疑似ランダムパターンを確実に、連続したデータとしてレジスタ103に格納していくことができる。このため、ビット誤り率特性の測定をより正確に行なうことが可能となる。

【0049】

ここで、図1における受信回路においては、通常動作時においてもパルス発生回路201は計数動作を行なっているので、受信回路の動作の初期状態において

は、指示信号DET1がワンショットパルスを発生すべきでないタイミングにおいて、カウントアップ信号COとしてワンショットパルスを発生する可能性がある。この場合は、レジスタ103に格納されたデータは、このデータに含まれる誤り検出ビットCRCにてデータの誤りとして判断され、このデータを破棄することができるので問題はない。この後、受信されるバースト信号の復調データから同期パターンが検出されれば、以降は、図3と同様な動作を実現することが可能となる。このため、図1の受信回路を適用しても、通常動作を十分実行することができる。

## 【0050】

また、図1の受信回路においては、構成する構成要素の数もそれほど増加するものではない。

## 【0051】

次に、本発明の第2の実施の形態における受信回路についてを、図面を用いて詳細に説明する。図4は、本発明の第2の実施の形態における受信回路の回路図である。なお、図4において、図1と同じ構成要素については同じ符号を付けて、説明の重複を避けている。

## 【0052】

図4においては、パルス伝達制御回路301を設けている。図4におけるパルス伝達制御回路301は、2入力1出力のANDゲートから構成されている。パルス伝達制御回路301には、カウントアップ信号COとモード信号CNTとが入力されている。パルス伝達制御回路301からの出力信号は、図1の制御回路202の一方の入力信号であったカウントアップ信号COの代わりに、入力されるようになっている。

## 【0053】

ここで、モード信号CNTとは、受信回路を通常動作の状態と、ピット誤り率特性を測定する状態とを選択的に設定する制御信号としての役割を有するものである。図4においては、モード信号CNTの電圧レベルがLレベルの時には、通常動作の状態を指示し、モード信号CNTの電圧レベルがHレベルの時には、ピット誤り率特性を測定する状態を指示するものとしている。図4におけるその他

の構成については、図1と同様である。

#### 【0054】

このように構成することにより、図4における受信回路は、次のように動作制御される。モード信号CNTの電圧レベルがHレベルの時には、カウントアップ信号の電圧レベルに応じた電圧レベルの信号が、パルス伝達制御回路301から出力される。この場合は、各構成要素の関係は図1の受信回路と同様になるので、図1と同様な動作が可能となる。

#### 【0055】

モード信号CNTの電圧レベルがLレベルの時には、カウントアップ信号の電圧レベルにかかわらず、電圧レベルがLレベルに固定された信号が、パルス伝達制御回路301から出力される。つまり、通常動作において、パルス発生回路201の出力信号であるカウントアップ信号COの影響を、制御回路202やクロック発生回路104に与えないようになっている。

#### 【0056】

このように、図4における受信回路においては、通常動作時に、カウントアップ信号COの変化に基づいて、クロック発生回路104からクロック信号が発生されることがないようになっている。よって、通常動作時において、受信回路の動作の初期状態においては、指示信号DET1がワンショットパルスを発生すべきでないタイミングにおいて、カウントアップ信号COとしてワンショットパルスを発生することで、レジスタ103が格納すべきでないデータを格納してしまうことが防止できる。この結果、より確実かつ高速に格納すべきデータをレジスタ103に得ることができる。

#### 【0057】

また、通常動作時に、同期パターンの検出に基づく指示信号DET1の変化タイミングと、カウントアップ信号COの変化タイミングとがずれてしまうことにより、格納すべきデータの正常な格納を妨げることもない。

#### 【0058】

なお、第2の実施の形態においては、図1の受信回路にパルス伝達制御回路301が追加することで上述のような効果を得ることができるために、受信回路全体

の回路構成を複雑化したり、受信回路を構成する構成要素それぞれの回路変更も必要ない。よって、製造工程が複雑化することや、受信回路を構成する構成要素が大幅に増加することを極力低減できる。

#### 【0059】

次に、本発明の第3の実施の形態における受信回路についてを、図面を用いて詳細に説明する。図5は、本発明の第3の実施の形態における受信回路の回路図である。なお、図5において、図1あるいは図4と同じ構成要素については同じ符号を付けて、説明の重複を避けている。

#### 【0060】

図5においては、図1の回路構成とほぼ同様であるが、更にクロック伝達制御回路401を設けている。図5におけるクロック伝達制御回路401は、2入力1出力のANDゲートから構成されている。クロック伝達制御回路401には、動作用クロック信号CLKと図4と同様なモード信号CNTとが入力されている。クロック伝達制御回路401からの出力信号は、パルス発生回路201に入力されている。つまり、図5においては、パルス発生回路201がクロック伝達制御回路401の出力信号を、計数する対象としている。図5におけるその他の構成要素は図1と同様である。

#### 【0061】

このように構成することにより、図5における受信回路は、次のように動作制御される。モード信号CNTの電圧レベルがHレベルの時には、動作用クロック信号CLKの電圧レベルに応じた電圧レベルの信号が、クロック伝達制御回路401から出力される。この場合は、各構成要素の関係は図1の受信回路と同様になるので、図1と同様な動作が可能となる。

#### 【0062】

モード信号CNTの電圧レベルがLレベルの時には、動作用クロック信号CLKの電圧レベルにかかわらず、電圧レベルがLレベルに固定された信号が、クロック伝達制御回路401から出力される。つまり、通常動作において、パルス発生回路201へ動作用クロック信号CLKを与えないようにして、通常動作時ににおけるパルス発生回路201の計数動作を止めている。このため、パルス発生回

路201は、通常動作時において、出力信号であるカウントアップ信号COの電圧レベルはLレベルに維持することができる。よって、第2の実施の形態と同様に、通常動作時におけるカウントアップ信号COの影響を、制御回路202やクロック発生回路104に与えないようになっている。

#### 【0063】

このように、図5における受信回路においては、その方法は異なるが、図4における受信回路と同様に、通常動作時に、カウントアップ信号COの変化に基づいて、クロック発生回路104からクロック信号が発生されることがないようになっている。よって、通常動作時において、受信回路の動作の初期状態においては、指示信号DET1がワンショットパルスを発生すべきでないタイミングにおいて、カウントアップ信号COとしてワンショットパルスを発生することで、レジスタ103が格納すべきでないデータを格納してしまうことが防止できる。この結果、より確実かつ高速に格納すべきデータをレジスタ103に得ることができる。

#### 【0064】

また、図5においては、パルス発生回路201の計数動作をも止めてしまうので、パルス発生回路201における消費電力を低減でき、本発明の受信回路を内蔵した無線装置における全体の消費電力を低減することに寄与できる。

#### 【0065】

また、図5の受信回路においても、通常動作時に、同期パターンの検出に基づく指示信号DET1の変化タイミングと、カウントアップ信号COの変化タイミングとがずれてしまうことにより、格納すべきデータの正常な格納を妨げることもない。

#### 【0066】

なお、第3の実施の形態においても、図1の受信回路にクロック伝達制御回路401が追加することで上述のような効果を得ることができるために、受信回路全体の回路構成を複雑化したり、受信回路を構成する構成要素それぞれの回路変更も必要ない。よって、製造工程が複雑化することや、受信回路を構成する構成要素が大幅に増加することを極力低減できる。

## 【0067】

以上のように、本発明の受信回路についてを詳細に説明したが、本発明の受信回路の構成は上記実施の形態のものに限定されるものではない。

## 【0068】

例えば、パルス発生回路201は、指示信号DET1にて計数値がリセットされるものとしているがこれに限定されず、例えば、任意の初期値から計数を開始可能なように、この初期値格納用レジスタを設けて、指示信号DET1にてこのレジスタに格納された設定値をパルス発生回路201に格納し、これを初期値として計数動作をするようにしてもよい。

## 【0069】

また、レジスタ103は、第2のクロック信号CK2にて格納しているデータを出力するようにしているが、第1のクロック信号CK1にて出力可能なようにすることも可能である。

## 【0070】

また、制御回路202、パルス伝達制御回路301、クロック伝達制御回路401は、それぞれ上述したような動作が可能であれば、他の論理ゲートや回路構成としてもよい。

## 【0071】

また、パルス発生回路201は、所定の計数値を巡回して計数動作を行なうタイマであれば、他の構成であっても適用可能である。また、パルス発生回路201の回路構成の変更を伴うが、モード信号によって、パルス発生回路201への動作用電源の供給を制御して、パルス発生回路201の活性化を制御することで、消費電力を低減するようにしてもよい。この場合、パルス発生回路201の出力であるカウントアップ信号COの電圧レベルを安定にするため、モード信号CNTの電圧レベルがHレベルの際、パルス発生回路201を非活性とし、この時にパルス発生回路201の出力であるカウントアップ信号COの電圧レベルに固定するような素子を設けた方がよい。このような素子としては、素子数の増加を極力低減することを考慮すれば、例えば、ゲート電極にモード信号CNTが入力され、カウントアップ信号COを伝達する信号線と接地電圧源との間に接続された

Nチャネル型MOSトランジスタが考えられる。

【0072】

また、レジスタ103に格納されるデータも、復調データのうちのデータDATAに限られるものではなく、データDATAの他にも格納すべきデータがあれば、そのビット数に応じて、レジスタ103を格納可能なビット数とし、クロック発生回路104から発生する第1のクロック信号CK1と第2のクロック信号CK2のクロック数を必要な数だけ発生するようにして、レジスタ103に格納するようにしてもよい。

【0073】

【発明の効果】

以上のように、本発明の受信回路によれば、ピット誤り率特性の測定をより正確に実行できる受信回路を提供することができる。

【0074】

また、本発明の受信回路によれば、通常の動作への影響、受信回路を構成する構成要素の増加、消費電力の増加のそれぞれを極力低減して上記の効果を実現する受信回路を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の第1の実施の形態における受信回路の回路図である。

【図2】

本発明の第1の実施の形態における受信回路の動作を説明するタイミングチャートである。

【図3】

送信されるバースト信号と、そのバースト信号のフォーマットを説明する図である。

【図4】

本発明の第2の実施の形態における受信回路の回路図である。

【図5】

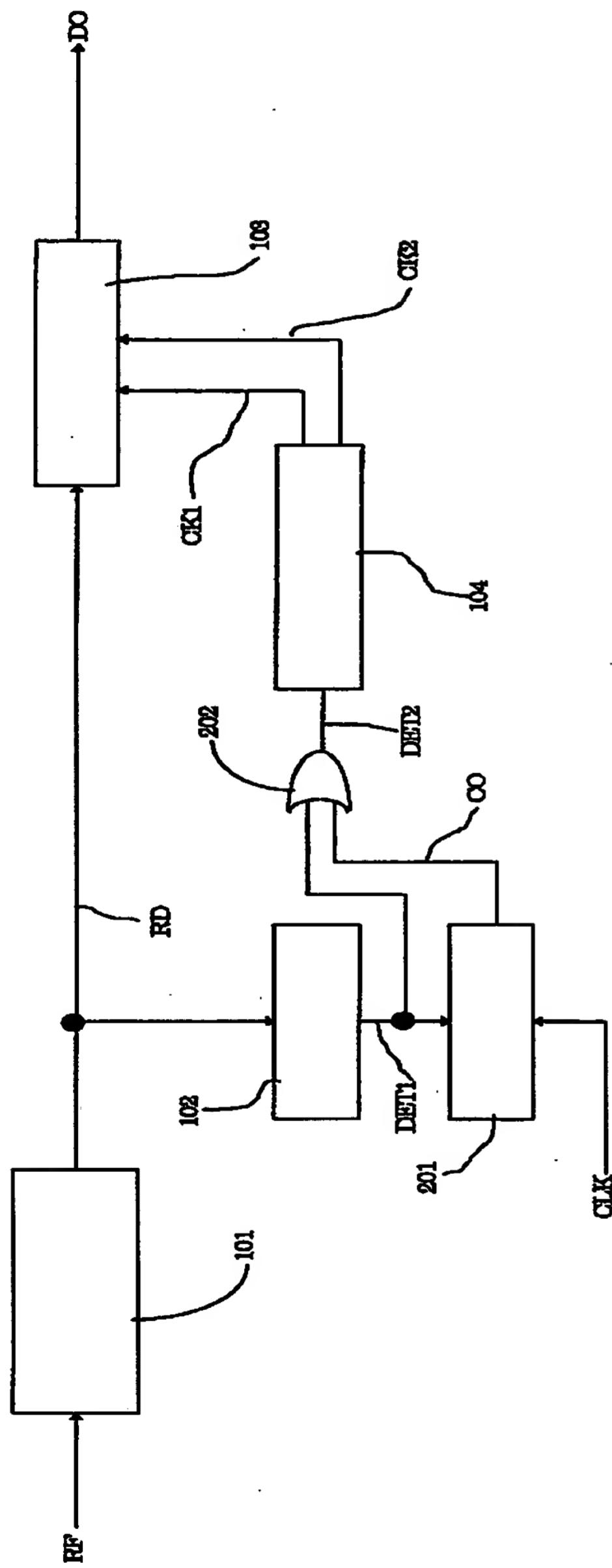
本発明の第3の実施の形態における受信回路の回路図である。

【符号の説明】

- 101 復調回路
- 102 検出回路
- 103 レジスタ
- 104 クロック発生回路
- 201 パルス発生回路（カウンタ）
- 202 制御回路
- 301 パルス伝達制御回路
- 401 クロック伝達制御回路

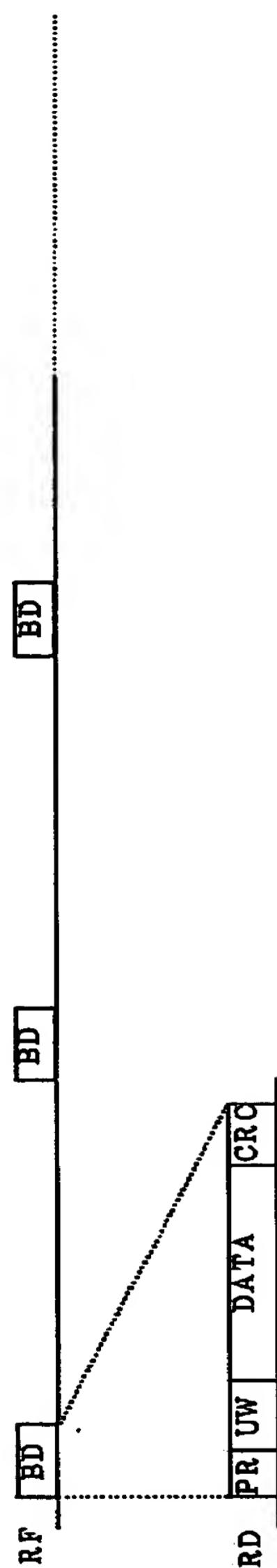
【書類名】 図面

【図 1】



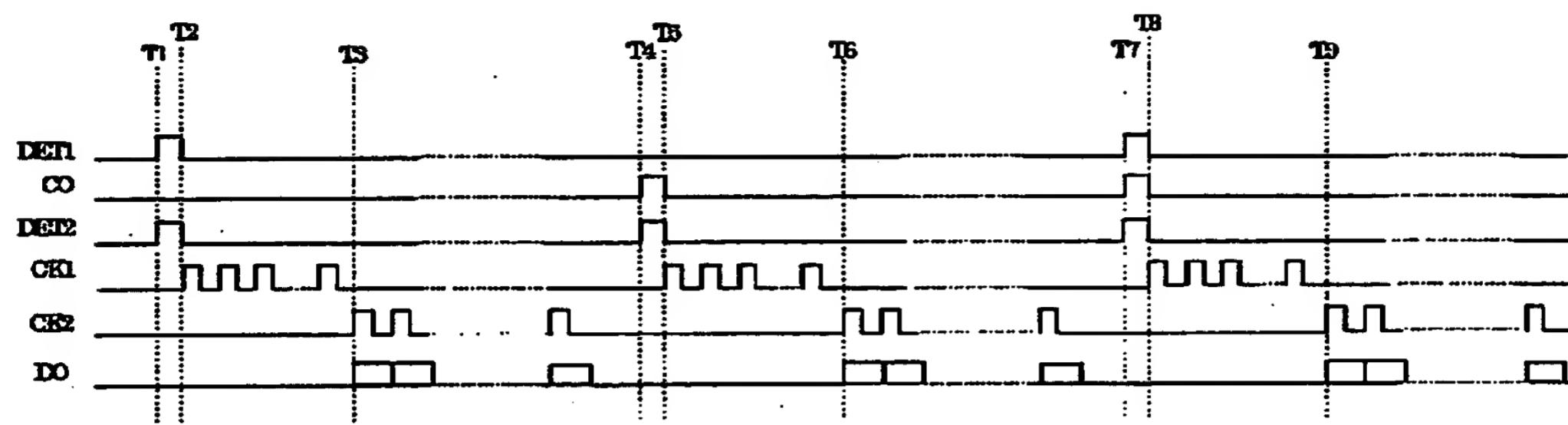
特平11-309026

【図2】

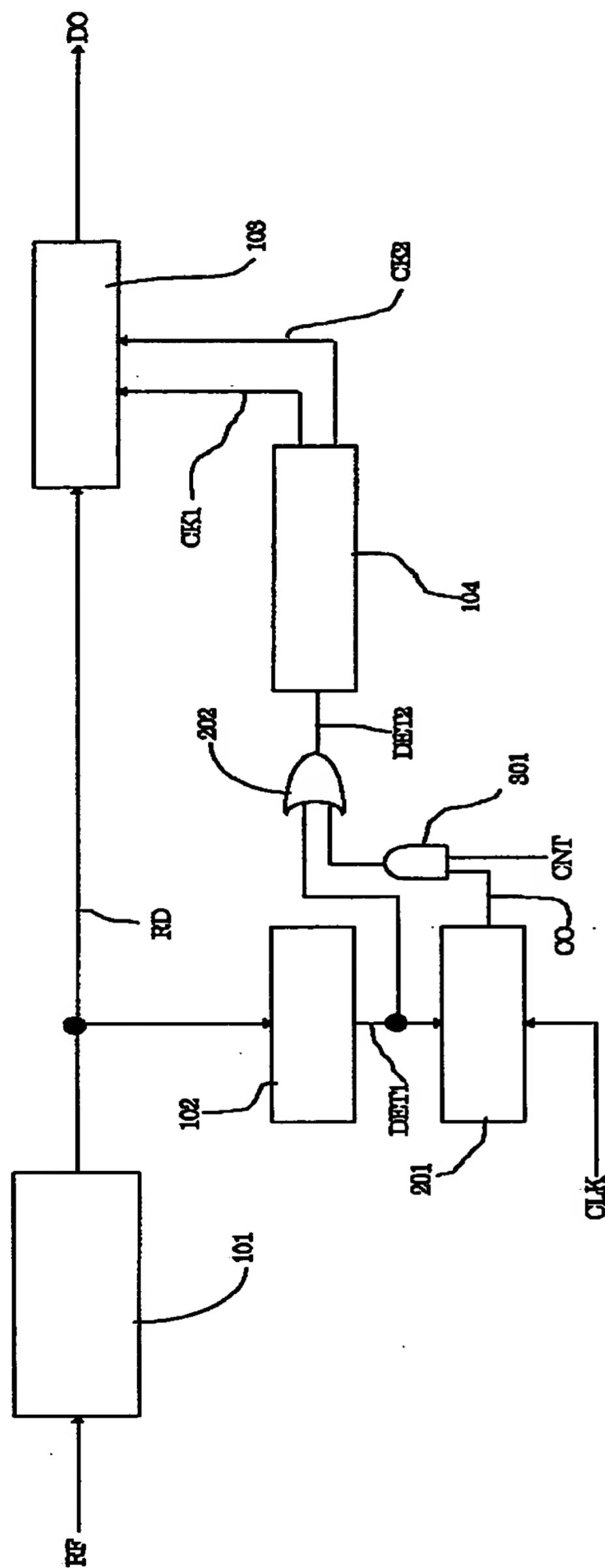


特平11-309026

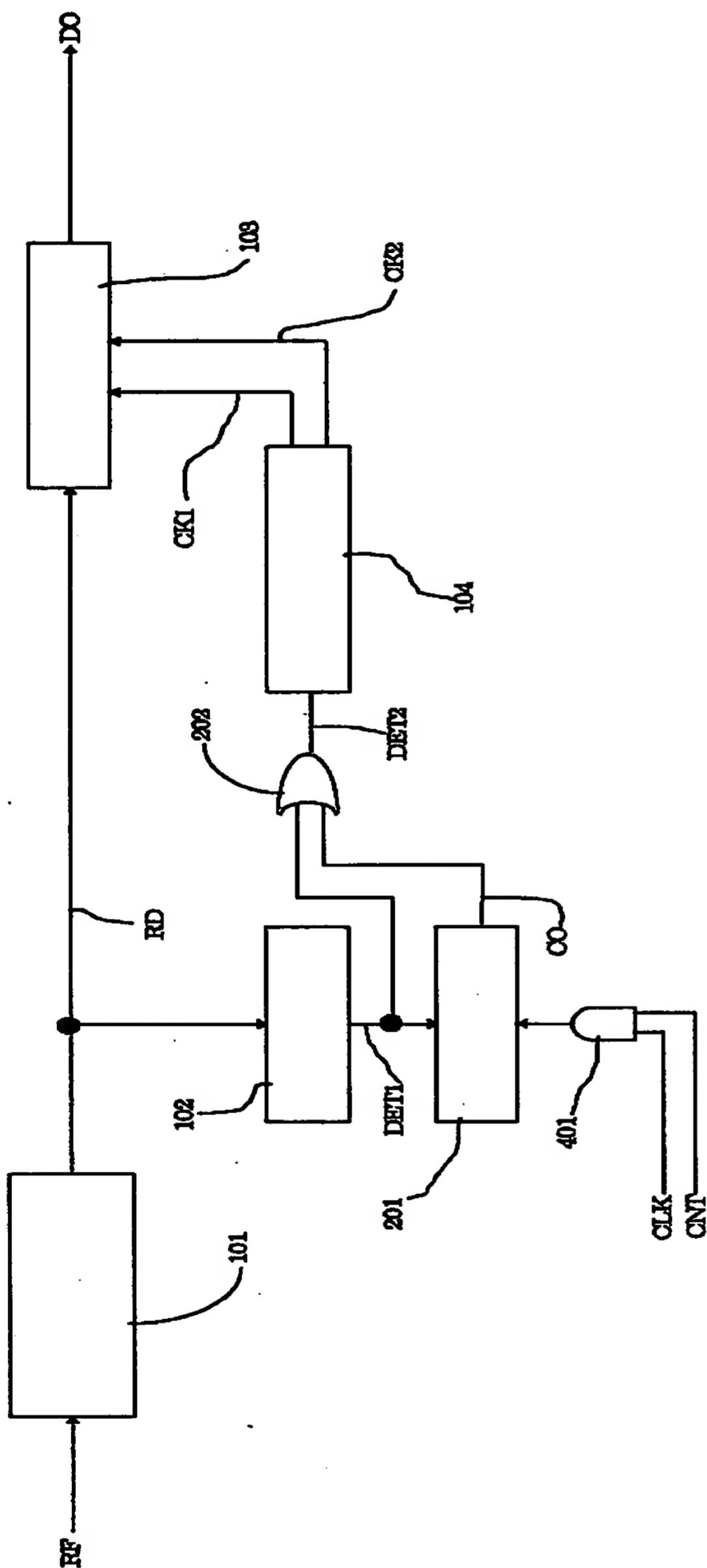
【図3】



【図4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 ピット誤り率特性の測定をより正確に実行できる受信回路を提供することを目的とする。

【解決手段】 先に受信した、連續した疑似ランダムパターンの一部を有するバースト信号から同期パターンを検出したことを指示する指示信号DET1に応じて計数値がリセット可能なカウンタとして動作するパルス発生回路201を設けて、パルス発生回路201は、続いて受信する疑似ランダムパターンの連續した一部を有するバースト信号の同期パターンが検出されるべきタイミングまで計数すると、指示信号DET1と同様なカウントアップ信号COを出力するようにした。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000000295]

1. 変更年月日 1990年 8月22日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都港区虎ノ門1丁目7番12号  
氏 名 沖電気工業株式会社